

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 100-8162
 住 所 東京都千代田区大手町二丁目6番3号
 氏 名 J X日鉱日石エネルギー株式会社 印
 代表取締役社長 木村 康
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	J X日鉱日石エネルギー株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区夜光二丁目3番1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	17	石油製品・石炭製品製造業
主たる事業 の内容	石油製品の精製・販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		619,133 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		5,682 t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	社会環境安全部社会環境グループ
		所在地	東京都千代田区大手町二丁目6番3号
		電話番号	03-6275-5073
		FAX番号	03-3276-1299
		メールアドレス	0
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成22年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 1,314,512 t-CO ₂ (調) 1,312,871	(実) 1,224,215 t-CO ₂ (調) 1,221,639	(実) t-CO ₂ (調)	(実) t-CO ₂ (調)	(実) 1,185,939 t-CO ₂ (調)
削減率		(実) 6.9 % (調) 6.9	(実) % (調)	(実) % (調)	(実) 9.8 % (調)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	換算生産数量		単位		t-CO ₂ /t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値	
排出量 原単位等の値	0.8815	0.8913			0.8477	
削減率		-1.1 %	%	%	%	3.8 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	2010年度は川崎製造所で装置停止を2回行ったため稼働率が低下したため原単位削減は出来なかったが、計画していた削減施策を着実に実施し、温室効果ガスが6.9%削減した。
第2年度	
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

<p>中期環境経営計画（2010-2012）を策定し、その重点テーマの1つに地球温暖化防止対策の推進を掲げ、全社的な省エネルギーならびに温室効果ガス削減目標として、全ての拠点においてエネルギー消費原単位を3年間で3%削減することを掲げているが、平成22年度は平成21年度対比1.6%の削減を達成した。今後も引き続き計画通りの削減を目指し、省エネ活動の積み上げ努力する。</p>
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、 第2号、 第4号該当者等)	計 画	<p>○主要設備のCO2削減措置 低効率ボイラーの停止、加熱炉排ガス中の酸素濃度低減の継続、スチームトラップ管理強化による漏洩スチーム削減対策の更なる推進、DCSの高度制御化(APC)導入、中間原料ホットダイレクトフィード化の推進等</p> <p>○オフィス部門のCO2削減措置 エアコンの温度設定の管理徹底、不要部分の消灯等</p>
	第1年度	<p>○主要設備のCO2削減措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー未使用排ガスダンパー閉止によるボイラー効率改善 ・加熱炉の排ガスO2濃度低減継続 ・スチームトラップの保全管理：外注化継続による漏洩蒸気削減 ・高度制御(APC)導入による省エネ：エチレン装置への導入 <p>○オフィス部門のCO2削減措置：エアコンの温度設定（夏季28℃、冬季20℃）の管理徹底、不要部分の消灯等、電気使用量削減対策の徹底</p>
	第2年度	
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	1. 川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）に参加しているが、今後も協力する。 2. かわさきコンパクトに参加しているが、今後も協力する。 3. 廃棄物の把握と削減を継続実施する（最終処分率0.5%以下にする）。 4. グリーン購入を推進する。
第1年度	1. 川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）に参加。 2. かわさきコンパクトに参加。 3. 廃棄物の把握と削減を継続実施する（最終処分率0.29%）。 4. グリーン購入を推進。
第2年度	
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	1,226,716	t-CO ₂
(調)	1,224,918	

(2) 事業所等单位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎製造所	川崎市川崎区夜光二丁目 3 番 1 号	1631	石油化学系基礎製品製造	1,218,815 t-CO ₂
川崎事業所	川崎市川崎区扇町 1 2 番 1 号	6052	卸売り小売業	6,310 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎ガス基地	川崎市川崎区水江町 5 番 1 号	6052	卸売り小売業	1,557 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	1

(3) 事業所等单位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎製造所	川崎市川崎区夜光二丁目 3 番 1 号	1631	石油化学系基礎製品製造	1,218,815 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	3
------	---